

論文内容要旨

MYC expression and translocation in DLBCL-type iatrogenic immunodeficiency-associated lymphoproliferative disorder
(DLBCL 型医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患における MYC の発現と転座)

Journal of Clinical and Experimental Hematopathology 2020 年

専攻名 病理系 臨床病理診断学 蒲澤宣幸

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (diffuse large B-cell lymphoma, not otherwise specified: DLBCL, NOS) は、悪性リンパ腫における病型の一つであり、ほとんどの症例で化学療法による治療が必要とされる。最近では DLBCL, NOS における C-MYC の蛋白発現および遺伝子転座が予後予測因子として注目されている。また DLBCL, NOS とは異なる病型である、医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患は、移植後リンパ増殖性疾患 (PTLD) とその他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患 (OIIA-LPD) に分類され、免疫抑制剤休薬後に縮小することが特徴とされているが、病理学的に DLBCL 型が存在する。DLBCL 型の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患 (DLBCL 型 LPD) における MYC の発現および転座に関する報告はほとんどなく、その病理学的特徴は明らかにされていない。我々は、DLBCL 型 LPD と DLBCL, NOS の臨床病理学的特徴、特に MYC の蛋白発現および遺伝子転座の異常を比較、検討した。2007~2017 年に昭和大学臨床病理診断学講座で診断した、PTLD および OIIA-LPD 25 例を選択、そこから DLBCL 型 13 人を抽出し、連続的に選んだ DLBCL, NOS 30 例と比較検討した。組織学的サブタイプの non germinal center B-cell-like type は、DLBCL 型 LPD 患者の全例 (100%) に認められ、DLBCL, NOS 患者の 57% に認められた ($p=0.003$)。腫瘍細胞における Epstein-Barr encoding mRNA in situ hybridization (EBER-ISH) の発現については、DLBCL 型 LPD 患者 13 例中 8 例 (62%)、DLBCL, NOS 患者 1 例 (3%) で陽性であった ($p<0.001$)。MYC の蛋白発現は、DLBCL 型 LPD 患者 13 例中 7 例 (54%)、DLBCL, NOS 患者 30 例中 9 例 (30%) で陽性であった ($p=0.178$)。MYC 転座の fluorescence in situ hybridization (FISH) 解析では、DLBCL 型 LPD 患者では 0%、DLBCL, NOS 患者では 13% の患者で陽性であった ($p=0.026$) が、この差は有意であった。この MYC 転座の欠如は DLBCL 型 LPD で病理学的特徴とされた。このように、DLBCL 型 LPD は、MYC 異常において DLBCL, NOS とは病理学的に異なる所見が認められた。これらの要因により、治療反応や臨床経過などの臨床的な違いが生じる可能性がある事が推察された。